

REPORT SHEET OF COIL EDUCATION

担当教員名	佐藤幸代	所属（学部 学科）	国際センター	
実施クォーター	Q 3			
授業名	南山	国際産官学連携 PBL 科目：外国人留学生のキャリア形成		
	相手大学・機関	Japanese Culture and Society		
カテゴリ	PBL			
パートナー教員名	Robin O'Day	所属	The University of North Georgia	
参加学生数	南山	7	相手大学・機関	13
使用言語	英語			
使用ツール	Zoom LINE 電子メール Google Drive その他	Instagram, Google Form, 先方大学のクラウドストレージ		
交流内容	交流は、日米学生の顔合わせと、日米両再度の授業を進めるうえで有益になることを目的として、多様な価値観を学生に理解してもらうために行われた。 ①日米合同オンラインセッション クォーターが始まる前に日米両学生がオンラインで合同セッション。日米大学紹介、教員と授業概要の紹介、グループ内の自己紹介、COIL 交流の日程・担当者・方法を決定⇒グーグルフォームに決定事項を回答してもらった。 ②COIL 交流①：WEEK1 の授業で一般社団法人グローバル愛知から、外国人留学生の就職支援の現状と課題を英語で講義してもらい、それを録画したものを UNG の教員へ送付。UNG の学生はその内容を視聴したうえで、南山の学生からの質問に回答。主に、南山生からはアメリカの学生の就職活動事情、キャリア観をヒアリングした。交流後、交流の様子を録画したビデオおよび交流の振り返りシートを学生に提出してもらった。 ③COIL 交流②：WEEK 2 の授業のあとに、アメリカの学生から事前にもらっていた日本社会や文化にまつわる質問について、COIL 交流において南山生側から回答した。交流後、交流の様子を録画したビデオおよび交流の振り返りシートを学生に提出してもらった。			

REPORT SHEET OF COIL EDUCATION

評価方法	COIL 交流については、提出されたビデオと、各回の振り返りシートにより評価。プロジェクト全体の評価についてはループブックによる評価。
コメント	・ 交流は全て英語で行われた。学生たちは流暢な英語で交流していた。 ・ P B L としては、COIL 交流に引き続き、対面で日本の大学で学ぶ外国人留学生とも交流し、彼らの抱える課題とその背景を理解したうえで、プロジェクトに取り組んだ。 ・ 中間報告の時には、一般社団法人グローバル愛知および、地域で活躍する多文化ソーシャルワーカーをお招きして、講評をいただいた。 ・ 最終発表では、一般社団法人グローバル愛知から講評をいただいた。